

月刊 やちまなこ

2024. 6.15 発行

No.319

6月号

釧路湿原国立公園 塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）だより

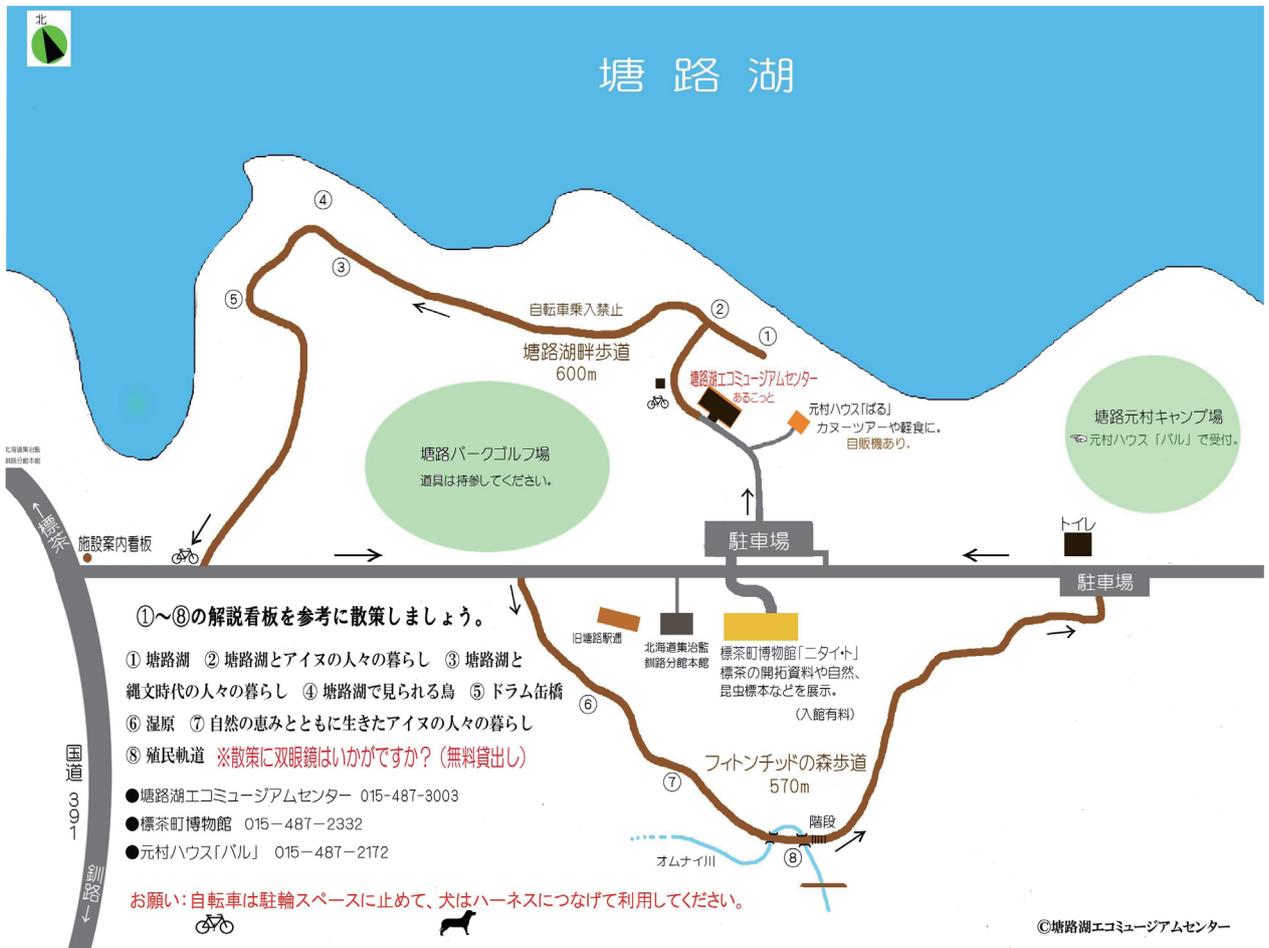


Photo Takashi Kitahashi

イトウ（*Parahucho perryi*）絶滅危惧 I B 類 サケ科

釣り人のロマンを掻き立ててやまない日本最大級の淡水魚イトウ。2mを超える捕獲記録もあり寿命は15～20年を超えるが成長は遅い。釧路湿原を流れる釧路川水系にも生息している。かつては本州にも分布していたが絶滅。国内では北海道にのみ生息している（養殖を除く）。アイヌ語ではオベライベ（オビラメ）やチライなど生息地域による呼び名の違いがある。

学名は黒船来航した米国総督のペリーから。



塘路フィールドノート【5/15~6/14】

【野鳥】

新緑の季節を迎えて野鳥の姿は樹木の葉に隠れて見えづらくなりましたが、森のあちこちから鳴き声が響き渡っています。鳴き声に加えてキツキ類のドラミングも盛んな初夏です。



オジロワシ (塘路湖畔)

渡りをせずに湖に居付いている一部の留鳥。お魚を捕まえて離すわけにいきません。



アオジ (茅沼)

この時期の自然色に同化して目立ちません。地面で草の種を食べます。ホオジロ科



アカハラ (塘路湖畔)

地面でミミズや昆虫を捕食しています。本州方面では1000m以上の高地に生息。ヒタキ科



カワラヒワ (塘路湖畔)

植物の種子を食べるために地上でも見かけます。様々な環境で生息可能。アトリ科



シメ (塘路湖畔)

ずんぐりとした体で全長の割に重量がある。嘴が太く種子を割って食べます。アトリ科



ウグイス (茅沼)

「ホーホケキョ」は聴こえるものの、なかなか姿を見せない一夫多妻の鳥。ウグイス科



ダイサギ (シラルトロ湖)

周辺で見かける姿も多くなってきました。魚が来るのをひたすら待ちます。サギ科



クマゲラ (塘路湖畔)

キョーンという鳴き声とドラミングも近くで聞こえます。付近で営巣しているかも？



ベニマシコ (塘路湖畔)

夏鳥で下北半島以北が主要繁殖地。地鳴きは「ピッポッピポッ」。アトリ科

【植物】

花を咲かせ、そこへ虫たちが誘引され受粉が完了すると果実を付けます。今度は果実を鳥や哺乳類に食べさせたり貯食させたり、植物の子孫繁栄戦略は奥が深い。



エゾノウワミズザクラ (蝦夷上溝桜)
国内では北海道の外に津軽半島に僅かに分布。水辺に多い。英名: Bird Cherry バラ科



ルイヨウボタン (類葉牡丹)
3 出複葉の多年草。二本松周辺の林内に多く見られ、果実は青黒く熟す。メギ科



ベニイタヤ (紅板屋)
イタヤカエデは 7 裂葉。ベニイタヤは 5 裂。昆虫は蛾の幼虫を食べるヨツボシヒラタシデムシ。

【哺乳類・爬虫類・昆虫】

気温上昇とともに昆虫たちの動きが活発になってきています。水辺を舞うトンボや翅を休めているチョウがよく見られます。鳥類や両生類の天敵でもある爬虫類も活動し始め、食う食われる自然の摂理が感じられます。



エゾリス (シラルトロ湖畔)

食のためならアクロバティックな体勢も余裕の身体能力。耳毛は夏にかけ減っていきます。



アオダイショウ (塘路湖畔)

日光浴のため日当たりの良い場所に出てきました。毒は無いですがたまに人を咬みます。



ミヤマカラスアゲハ (茅沼)

春と夏の年 2 度の出現。水辺や林道で吸水している姿が見られます。アゲハチョウ科

【報告】「新緑の森林ウォーク」を開催しました

5月25日、二本松展望地周辺の新緑の森の中を歩きながら樹木を含めた植物の生存戦略を学びました。強風予報ながら林内ではそれほど感じず、講師の森林インストラクターから樹木の基本知識と葉の生え方から識別法、葉の匂いや蜜腺などの専門知識を伝授されました。

現地を歩きながらイタヤカエデとベニイタヤの葉裂の違いやエゾヤマザクラとミヤマザクラの違い、新芽の美味しいハリギリの特徴、アイヌの人々が魔除け等に使ったイヌエンジュ、葉の香りが良いキタコブシ、ミズナラの生命力、コクワやヤマブドウといった蔓性樹木の巻きの向き、日光をめぐる競争等々、盛りだくさんの解説をいただきました。

確認樹種 25 種以上 参加者 16 名



観察風景

【報告】「初夏の湿原 野鳥観察会」を開催しました

6月8日、初夏のシラルトロ湖畔で野鳥観察会を開催しました。天気は曇りで微風という好条件。湖上には1羽のオオハクチョウがいて、本来であれば既に北へ渡っているはずのオオハクチョウがなぜ1羽だけここに留まっているのかなどの解説がなされました。空にはトビが弧を描くように飛び、尾羽を傾けるように使って方向転換をしていることや、水辺に落ちたヒシの実がどのように水鳥の羽根にとりつき、他の水辺へ運ばれるのかなど、水草と水鳥の関係や仕組みについて解説がなされました。蝶の森では遠くにツツドリやアオバトの声を確認しながら図鑑やチェックリストでその姿を学び、観察会の最後には、アカゲラやアオバトの羽根を実際に手に取ってどこの部位の羽根なのか、色や模様の特徴などを皆で観察しました。

確認種 25種類 参加者 15名



ツツドリ

7月の自然ふれあい行事

事前の申し込みが必要です

縄文土器作り講座

[日 時] 7月6日(土) 10時～14時
[定員・参加料] 15名 400円(材料費)
[開催場所] 塘路湖エコミュージアムセンター

◎申込・問い合わせは

塘路湖エコミュージアムセンターまで

夏休み！塘路湖畔の夜の虫を探してみよう

[日 時] 7月27日(土) 18時半～20時半
[定員・参加料] 15名 無料
[開催場所] 塘路湖エコミュージアムセンター

◎申込・問い合わせは

塘路湖エコミュージアムセンターまで

夏の樹木を見に行こう

[日 時] 7月7日(日) 10時～12時
[定員・参加料] 15名 無料
[開催場所] 温根内ビジターセンター

◎申込・問い合わせは温根内ビジターセンター
(0154-65-2323)まで

ホタルの週末

[日 時] 7月12日(金)～14日(日)
18時30分～21時
[定員・参加料] 20名 無料
[開催場所] 温根内ビジターセンター

◎申込・問い合わせは温根内ビジターセンターまで

◆日出・日入時間 5/15(3:57,18:38). 5/31(3:45,18:53).6/14(3:41,19:02)

～指導員の独り言～

■今なお人気色があせることなく海外にもファンが増えている「ゴジラ」。さらに「大魔神」、「座頭市」シリーズ。そして「釧路湿原」。いったい何の共通点があるのか。ピンと来た人はいるだろう。5月31日は音楽を手掛けた釧路出身の伊福部昭(1914～2006)生誕110周年である。「釧路湿原」はラムサール条約釧路会議を記念して既存の楽曲提供を打診された伊福部だが、4部構成の曲を4年の歳月をかけて一から完成させた。数々の伊福部作品を知ること、もっと評価されるべきと思う。(M)

釧路湿原国立公園

塘路湖エコミュージアムセンター あるこっと

☎ 088-2264 北海道川上郡標茶町塘路原野

TEL: 015-487-3003 FAX: 015-487-3004

E-mail: emc@kushiroshitsugen-np.jp

Instagram [torokoemc](https://www.instagram.com/torokoemc)

開館時間: 10:00～17:00

(11～3月: 16:00まで)

休館日: 毎週水曜日 12月29日～1月3日

入館無料